

講義名	経営管理演習(II2)			授業形態	
担当教員	潘 志仁	開講期・曜日・時限	通年 月曜日 3時限		
		単位数	6	履修開始年次	2年生

主題と概要

経営管理研究分野における修士論文を完成させることが、本演習の目的となります。院生が取り組む修士論文の課題に関する文献レビューを通じて、自分の論文が既存研究の中でどのように位置づけられるかを明らかにし、独自の分析枠組みの提示をめざします。

到達目標

- (1) 修士論文の作成を視野に入れて、問題意識から研究テーマの選定、文献レビュー、調査計画の策定、仮説のたて方、論拠のたて方、結論の導き方を身につけるようになる。
- (2) 修士論文作成の基盤づくりを通して、その進捗をもとに論文構成、論理展開など論文としての精緻化を目指すようになる。

提出課題

毎回一人が発表し、それを他のメンバーがコメントしたうえで、指導教員が好評・解説を行います。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回課題

評価の基準

発表と授業へのコミットメントによる、受講生の成績を評価します。

履修にあたっての注意・助言他

大人の態度（礼儀正しい言葉、態度、行動）
 単自の連絡（相談、履修届など、単自にいつでもほしい）
 相互に学びあう、助け合う。（ゼミ仲間間で、毎週の研究報告のレジュメをよく読み、コメントする）
 自分からよく連絡する
 いろいろなことを話し合う、相談する
 指導教授とのコミュニケーション
 逃げない
 専任や准は構わない
 しっかり上手になってほしい
 たよりにする、しかし、たよりにばなしにしない
 前倒しのクセ
 単自単自のクセ(スケジュール)より

教科書

.世界標準研究を発信した日本人経営者たち.	小川進	白桃書房		
-----------------------	-----	------	--	--

参考図書

その他

適宜指示

授業計画

1. テーマを決める
2. 「いいテーマ」とはなにか
3. 問題意識とは
4. 仮説と証拠—論文の中核
5. 仮説の育て方
6. 仮説の源泉
7. 三つのタイプの証拠
8. データという証拠
9. 厚い証拠という証拠
10. 論理という証拠
11. 現象と理論の往復運動のコツ
12. 論文の裏側の三つのパターン
13. 概念の表現、定義の正確性
14. アマチュアは目録中心、プロは他人のために書く
15. 脚注と参考文献

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎週の研究報告のレジュメをよく読み、コメントするには、毎日1時間が必要とされる。そして、指導教員のコメントに従ってレジュメを修正し、文章に表現するにも、毎日3時間以上が必要とされる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

修士論文作成の準備と作成過程の具体化を行う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

オール・ラーニングを目指す。

実務経験の有無及び活用

備考
